

## プラズマ物理における最近の話題

数年前まで、高温プラズマの実験というのは、物性理論家にとってそれほど面白いものではなかった。一つには、理論家の多くが“発散”にばかり興味があって、“放電管”に興味をもたなかったためであるが、一方実験の方も何を測定しているのか分りにくい場合が多く、きれいごとの好きな理論家の興味をひきつけるに足るデータを示してくれなかったように思う。しかし、ここ数年、事情は著しく変化した。その一つの典型的なものが、ランダウ減衰の実験的検証にあると云えよう。最近では、静かなプラズマ中に素状の知れた波動を励起してその性質を調べるというような研究が盛んに行われるようになり、プラズマ物理も物性物理の仲間入りができるようになって来たように思う。

このシリーズでは、そのような最近のプラズマ物理における進歩について、6回ぐらいにわたって解説を試みる。まだ、はっきりした Content は定まっていないが、大体の予定は次の通りである。

第1回～第2回 磁場のない無衝突プラズマにおける緩和現象

(西川恭治, 池上英雄)

第3回～第4回 磁場中プラズマにおける不安定性と拡散現象

(天野恒雄)

第5回 プラズマにおける安定性の理論 (長谷川晃)

第6回 プラズマと電磁波の相互作用 (田中茂利, 佐藤哲也)

実はこれだけではとても話題を追いきれないのだが、編集者(西川)の独断でテーマと執筆者をえらばせていただいた。

(西川恭治)